

件

元和貳年辰九月十五日

中村彌右衛門尉吉繁黒押印

圓藏院

安房郡

〔房陽郡郷考〕安房郡北は平群の界に至り東朝夷郡界に臻り西南は海に限る、

〔安房概志〕郡名

安房郡和名抄曰、阿八、南洲崎ニ起テ、北山名村ニ距リ、平群ト郡ヲ接シ、西濱ハ湊八幡ノ邊ヨリ海ヲ環シテ、東南瀧口村ニ終ル、其正東全ク朝夷郡ト接壤セリ、此郡ヲ安房ト稱スルコトハ、神武天皇ノ朝ニ、阿波齋部氏天富命ニ隨從シテ來リ、麻穀ヲ樹藝センタメ、居住アリシ地ナレバ、アハノ辭ニ因テ、安房郡ト名ク、古語拾遺ニ、阿波忌部所居、便名安房郡、天富命即於其地立太玉命社、故其神戸有齋部氏トミニ、又當郡ヲ指シテ神郡ト稱セリ、式部式曰、安房郡ト號シテ神郡トナス、○中略中古安房郡ノ名ヲ改メ山下郡ト稱セシコトアリ、里見志ニ神餘太郎滿孝ノ臣ニ、山下佐衛門景胤一本宣兼トテ、惡逆ナルモノアリ、或日酒ヲ主人滿孝ニ獻ジテ大ニ醉シメ、其虛ニ乗ジテ、刀ヲ拔テ首ヲ取り、終ニ其地ヲ押領シ、安房郡ヲ改テ、私ニ山下郡ト號ス、然ドモ臣トシテ君ヲ殺セル、ソノ篡奪ノ罪ヲ惡ンデ、時人之ヲ乏シテシキツコホリ山下郡ト呼タリト、里見氏ノ世ニ至テ、猶山下郡ヲ以テ稱セシニヤ、其頃ノ寶珠院ノ舊書記ニハ、山下郡某村ト云コトミエタリ、

〔房總志料安房〕安西は國郡○安房のうち也、○中略

朝夷郡和田白兒などに接し、安東村有安房郡の安西に對せし名なるべし、

〔吾妻鏡〕治承四年九月一日庚戌爰安房國住人安西三郎景益者、御幼稚之當初、殊奉昵近者也、仍最前被遣御書、

〔延喜式〕凡郡司者、一郡不得併用同姓、若他姓中无人可用者、雖同姓除同門外聽任、神郡陸奥緣